





魚類図鑑 (その4)

<p>アユ</p>	<p>トビハゼ</p>
	
<p>サケ目キュウリウオ科</p>	<p>スズキ目ハゼ科</p>
<p>秋に中流域下流部の砂礫底で産卵し、冬は沿岸で動物プランクトンを食べ、冬に遡上する。夏は中流域で石の上の藻類を食べ、よくなわばりをつくる。通常は1年魚。</p>	<p>水陸両生のハゼ。河口干潟や汽水域の岸辺、湿地にすみ、水面の上を飛び跳ねて移動したり、泥の上を胸ひれを使って前進する。水面をゆっくり泳ぐこともできる。極端な乾燥をきらい、水溜まりに体を浸けたり、泥の上で横転したりする動作を繰り返す。表泥中の底生動物やデトリタスを食べる。</p>
<p>シマヨシノボリ</p>	<p>オオヨシノボリ</p>
	
<p>スズキ目ハゼ科</p>	<p>スズキ目ハゼ科</p>
<p>川の中流域を中心に生息し、特に平瀬に多い。大河川でも、小河川でも分布する。雑食性で付着藻類や小型の水生昆虫を主に食べる。西日本での産卵期は5～7月。雄がなかば砂に埋まった石の下に産卵室をつくり、雌を呼び入れて、天井に卵を産みつける。産卵後も雄は巣にとどまって、孵化するまで卵を保護する。孵化した仔魚は直ちに海に下り、2～3ヶ月をそこで過した後、川へ遡上する。</p>	<p>川の中流から上流域にかけて生息し、特に早瀬から淵頭にかけての急流部に多い。西日本では、大河川に分布する傾向にある。雑食性で、付着藻類や小型の水生昆虫を主に食べる。産卵期や産卵生態は、シマヨシノボリとほぼ同じ。孵化した仔魚は直ちに海に下り、2～3ヶ月をそこで過した後、川へ遡上する。</p>